

一般演題

13:00 ~ 14:15 | 中会議室(共用講堂 1階)

[03] 一般講演 3

座長: 万福 裕造(農業・食品産業技術総合研究機構)

13:00 ~ 13:15

[03-01] 浜通り地域をフィールドとした環境放射線研究と人材育成の取り組み

○住浜 水季^{1,2}、岡田 美智雄³ (1. 岐阜大学教育学部物理科、2. 大阪大学核物理研究センター、3. 大阪大学放射線科学基盤機構)

13:15 ~ 13:30

[03-02] 災害被災地域におけるケアの対話実践の一考察—福島県大熊町の事例から—

○有廣 悠乃¹、大西 悟¹、五味 馨¹、中村 省吾¹、辻 岳史¹、日下部 直美¹、常盤 達彦¹ (1. 国立研究開発法人国立環境研究所)

13:30 ~ 13:45

[03-03] 中間貯蔵施設内における住民と連携した共同専門知構築プロセス
-大字誌と祭の再開-

○保高 徹生¹、金井 裕美子²、二宮 萌乃¹、藤井 新子¹ (1. 産業技術総合研究所、2. 元産業技術総合研究所)

13:45 ~ 14:00

[03-04] 福島第一原発事故後の大熊町・双葉町の住民を対象としたアンケート・インタビュー調査に関するスコーピングレビュー：研究の網羅的整理と研究ギャップの特定

○佐々木 大記^{1,2}、保高 徹生¹、高田 モモ¹ (1. 産業技術総合研究所、2. 筑波大学大学院)

14:00 ~ 14:15

[03-05] ゼロカーボン推進による復興まちづくりを通じた協働型ガバナンスの進展と課題

○大西 悟¹、辻 岳史¹、五味 馨¹、中村 省吾¹、有廣 悠乃¹、戸川 卓哉¹、大和田 興¹、小林 拓郎¹、小井土 賢二¹、倉持 秀敏¹ (1. 国立環境研究所)

【座長講評】

本セッションでは、「浜通り地域をフィールドとした環境放射線研究と人材育成の取り組み」、「災害被災地域におけるケアの対話実践」、「中間貯蔵施設内における住民と連携した共同専門知構築プロセス」、「大熊町・双葉町住民を対象としたアンケート・インタビュー調査のスコーピングレビュー」、「ゼロカーボン推進による復興まちづくりを通じた協働型ガバナンス」に関する 5 件の発表が行われた。

各発表は研究対象や手法こそ異なるものの、福島第一原子力発電所事故後の地域再生を、環境、人々の暮らし、コミュニティ、文化、そして将来の地域づくりを含めた総合的な視点から捉えている点で共通していた。環境放射線研究や住民調査に関する発表では、復興を支える科学的知見の蓄積やその成果の継承の重要性が示された。一方、ケアの対話実践や祭りの再開に関する報告からは、復興が単なる物理的・経済的な回復ではなく、人々との関係性や地域の記憶・文化の再構築の過程でもあることが改めて示された。また、ゼロカーボンを軸としたまちづくりの発表からは、被災地が未来志向の地域モデルを創出する場として新たな可能性を有していることが示唆された。

当日は多くの参加者にご聴講いただき、各発表に対して活発な質疑応答や意見交換が行われた。研究成果の意義や今後の展開のみならず、住民との協働のあり方や復興の評価軸

などについても多様な視点から議論が交わされ、本テーマへの関心の高さがうかがえた。福島復興は今なお進行中の課題であり、自然科学、人文・社会科学、さらには実践現場との連携を含む学際的な取り組みが重要である。本セッションはそのような研究の広がり可能性を示す有意義な機会となったことを報告し、講評としたい。

(万福 裕造)